



緑色に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	静岡市歴史文化施設	BEE	1.1	BEEランク	B+	★★★

2. 重点項目への取組み度					
重点項目	得点/満点	取組み度	評価	コメント	
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.4 / 5		ふつう		
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	4.0 / 5		よい		
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.3 / 5		ふつう		
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.7 / 5		がんばろう		
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上	がんばろう 3 点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目	
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。		得点	3.4
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)			
<p>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数)</p> <p>① 窓システム、外壁、屋根や床において、室内への熱の侵入に対して配慮がなされており、実用上、日射遮蔽性能および断熱性能に問題ない。</p> <p>② 歴史体感展示、回廊は昼光センサを利用。</p> <p>③ カーテンと庇との組み合わせでグレアを制御する。</p> <p>④ 住宅の品質確保の促進に関する法律における木材、鉄骨又はコンクリートの評価方法基準で等級IIに相当</p>	<p>Q-1 2 2.1 2.1.2 ① 外皮性能</p> <p>Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 昼光利用設備</p> <p>3.2 3.2.1 ③ 昼光制御</p> <p>Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 躯体材料の耐用年数</p> <p>2.2.2 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔</p> <p>2.2.3 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔</p> <p>2.2.4 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔</p> <p>2.2.5 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔</p> <p>2.2.6 ④ 主要設備機器の更新必要間隔</p>		
<p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上)</p> <p>⑤ 外構緑化指数が、10%以上20%未満を示す規模の外構緑化を行い、なおかつ中高木を植栽している。</p> <p>⑥ 敷地周辺の風の状況を把握し、敷地内の歩行者空間等へ風を導く建築物の配置・形状計画とする。</p>	<p>Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出</p> <p>3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上</p>		
<p>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用)</p> <p>⑦ 高断熱な外皮計画 ⑧ ナイトバージで涼しい外気を取り込む。 ⑨ (BE)IBEIm=0.94</p> <p>⑩ 建物で消費される各種エネルギー消費量を年間に渡って把握し、消費原単位等を用いてのベンチマーク比較が行える。</p>	<p>LR-1 1 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制</p> <p>2 ⑧ 自然エネルギー利用</p> <p>3 ⑨ 設備システムの高効率化</p> <p>4 4.1 ⑩ モニタリング</p> <p>4.2 ⑩ 運用管理体制</p>		
<p>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避)</p> <p>⑪ 節水コマなどに加えて、省水型機器などを用いている。</p> <p>⑫ 排水・通気用ポリ塩化ビニル管の採用有り。</p> <p>⑬ 持続可能な森林から産出された木材の使用比率が94.9%</p> <p>屋根及び外壁の断熱材はワタソン(ODP=0)及びGWPが50未満である。</p>	<p>LR-2 1 1.1 ⑪ 節水</p> <p>1.2 1.2.1 ⑪ 雨水利用システム導入の有無</p> <p>1.2.2 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無</p> <p>2 2.1 2.1.1 ⑫ 材料使用量の削減</p> <p>2.1.2 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用</p> <p>2.1.3 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用</p> <p>2.1.4 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</p> <p>2.1.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材</p> <p>2.1.6 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み</p> <p>3 3.1 ⑬ 有害物質を含まない材料の使用</p> <p>3.2 3.2.1 ⑬ 消火剤</p> <p>3.2.2 ⑬ 断熱材</p> <p>3.2.3 ⑬ 冷媒</p>		
<p>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善)</p> <p>⑭⑮ 燃焼系機器を使用しておらず、対象建築物の仮想閉空間から外部空間に対して大気汚染物質を全く発生しない。</p>	<p>LR-3 1 ⑭ 地球温暖化への配慮</p> <p>2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善</p>		
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)		得点	4.0
<p>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性)</p> <p>⑯ 建築基準法に定められた50%増の耐震性を有する。</p> <p>⑰ 換気設備の重要度の応じて系統を区分し、災害時には重要度の高い系統を優先的に運転するほか、負荷容量を下げた運転も可能となるように検討している。空調設備についても同様である。機械・配管支持方法については、耐震クラスAまたは、動的解析を行った上で設計用水平震度KHを1.5以上としている。通信・情報設備については、精密機器の浸水による情報網の損傷を回避するために、地下空間への設置を避ける。災害時の有線電話、FAX、地域防災無線が設置されている。ネットワーク機器に無停電装置を設置。</p>	<p>Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 耐震性</p> <p>2.1.2 ⑯ 免震・制振性能</p> <p>2.4 2.4.1 ⑰ 空調・換気設備</p> <p>2.4.2 ⑰ 給排水・衛生設備</p> <p>2.4.3 ⑰ 電気設備</p> <p>2.4.4 ⑰ 機械・配管支持方法</p> <p>2.4.5 ⑰ 通信・情報設備</p>		
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)		得点	3.3
<p>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり)</p> <p>⑱⑲ パリアフリー新法の建築物移動等円滑化基準を満たしている。</p> <p>⑳ 最小の階高4.28m</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮)</p> <p>㉑ 遺構を保存し、展示に組み込んでいる。建物の内装材に歴史的景観に合うように漆喰調塗装や木製建具を用いて、調和を図る。</p>	<p>Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画</p> <p>3 3.1 3.1.1 ⑳ 階高のゆとり</p> <p>3.1.2 ㉑ 空間の形状・自由さ</p> <p>Q-3 3 3.1 ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上</p>		
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)		得点	2.7
<p>■室外環境(敷地内)対策 (①生物環境の保全と創出/②まちなみ・景観への配慮/③敷地内温熱環境の向上)</p> <p>① 外構緑化指数が、10%以上20%未満を示す規模の外構緑化を行い、なおかつ中高木を植栽している。</p> <p>② 建物の高さ、壁面位置、外装・屋根・庇・開口部・扉等の形状や色彩に置いて、周辺のまちなみや風景にバランスよく調和させている。</p> <p>敷地周辺の風の状況を把握し、敷地内の歩行者空間等へ風を導く建築物の配置・形状計画とする。</p> <p>■敷地外環境対策 (④温熱環境悪化の改善)</p> <p>④ 風下となる地域への風通しに配慮し、夏期の卓越風光に対する建築物の見付け面積比が38.6%として、敷地外への熱的な影響を低減する。</p>	<p>Q-3 1 ① 生物環境の保全と創出</p> <p>2 ② まちなみ景観への配慮</p> <p>3 3.2 ③ 敷地内温熱環境の向上</p> <p>LR-3 2 2.2 ④ 温熱環境悪化の改善</p>		

CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	静岡市歴史文化施設	階数	地上4F
建設地	静岡県静岡市	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	20人
地域区分	7地域	年間使用時間	3,120時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年6月 予定	評価の実施日	2022年7月5日
敷地面積	4,991㎡	作成者	SANAA
建築面積	2,289㎡	確認日	2022年7月5日
延床面積	4,886㎡	確認者	静岡市



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比したライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.1

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.4

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.6

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合 東御門や翼檐など周辺の歴史的建造物や風景に調和するように、配置計画及び外装計画を行なった。また、発見された遺構が博物館の中心となるように、そして遺構を状態良く保存できるように設備計画及び内部計画を行った。建物全体のエネルギー消費量をなるべく抑え、建物周囲にも負荷をなるべく与えないように計画した。		その他
Q1 室内環境 天井の高い空間は床吹出空調を採用し、上下温度差の小さい環境を構築する。	Q2 サービス性能 維持管理や更新に支障のない計画としている。停電時においても、収蔵庫や展示室の重要室は空調換気が継続運転できる計画としている。	Q3 室外環境(敷地内) 建物の高さ、壁面位置、外装・屋根・庇・開口部・塀等の形状や色彩において、東御門や翼檐など周辺の歴史的建造物や風景に調和させている。
LR1 エネルギー エネルギー消費の規制値を満たす一般的なレベルである。	LR2 資源・マテリアル ・持続可能な森林から産出する静岡市産材の使用比率が84.9%と非常に高い割合である。・ノンフロンで、GWPが低い発泡剤(GWP(100年値)が50未満)を用いた断熱材を外断熱材として使用している。	LR3 敷地外環境 燃焼機器を使用しておらず、対象建築物の仮想閉空間から外部空間に対して大気汚染物質を全く発生しない。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される